

1 自己評価

- (1) 評価結果 (別紙参照)
- (2) 今年度の具体的な取組と今後の課題
- 「社会の変化に対応し、地域に貢献する生徒を育てる学校」を目指し、今年度は「学力向上の推進」、「キャリア教育の推進」、そして「生徒教職員協働によるウェルビーイングの向上」の3つの目標に重点的に取り組んだ。
- 「学力向上の推進」では「ICT活用による個別最適な学習推進モデル事業」における3年間の研究成果のまとめに加え、外部講師活用や地域での課題活動等を充実させることで学科における学びの深化に取り組んだ。
- 「キャリア教育の推進」では、進路関係データの分析と活用に課題が残ったが、多種多様な社会貢献活動やキャリアガイダンスの実施に加え、担任による面接の回数と内容を充実させて、社会との接続を意識した進路指導を行った。
- 「生徒教職員協働によるウェルビーイングの向上」では、2年生向けに「レジリエンス」、3年生向けに「ストレス対処法」等の心の健康に関する講演会を新たに企画・実施した。併せて、職場の同僚性を高める目的で教職員対象のウェルビーイング研修を実施し、チーム支援による組織的対応の強化に取り組んだ。

2 学校関係者評価委員名

秋田 修一	(秋田税理士法人)
伊藤 享	(株式会社倉敷ケーブルテレビ)
岡 浩二	(水島まちづくり協議会)
小河原 公平	(地域代表)
河田 いづる	(くらしき作陽大学)
岸本 長代	(本校同窓会)
畑 祐也	(本校PTA)
宮木 秀樹	(倉敷市立南中学校)

3 学校関係者評価

- 主なご意見
- <学校評価書について>
- 各分掌で作成していたこれまでの学校評価書から、それらをまとめた統合版を作成するにあたり、学校経営目標の達成に向けた具体的な取組とリンクさせた内容に整理することで、よりよい成果につながるのではないかと思います。
 - 地域に密着した学校であるために、ボランティア活動は確かに大事であるが、一時的な社会貢献で終わることなく、生徒たちがボランティア活動をとおして、将来地域で活躍するイメージをもってくれたらありがたい。
 - 生徒へのアンケートから、「社会に役立ちたい」という気持ちが高いことが分かるが、一方で「向上心」や「挑戦する力」が弱い点が気になっている。これらが相乗効果を生むような仕掛けが必要になってくる。
- <スクール・ポリシーについて>
- 個人主義が進んでいて、地域ではまとまるのが難しい状況である。倉敷中央高校の良さは、異なる専門分野を学ぶ生徒がおり、多様性の大切さを学べる環境があること。このような環境で身につけられる力は学校のアピールポイントになる。
 - 倉敷中央高校で身に付く力の1つが「適切なコミュニケーション力」である。各科の活動をとおして生徒は異年齢間のコミュニケーションを経験していく。社会に出て協働していく上で欠かせない

ものであり、目指すべき力の1つである。

- ・誰しも良いところとそうでないところをあわせ持っている。良くないところをどうするかよりも、良いところをさらに伸ばそうという発想で教育活動を考えることで、状況が大きく変わる可能性がある。

<ICT活用による最適な学習推進モデル事業について>

- ・アプリを使った学習は、個々の生徒が自身に必要な力をマイペースで身に付けていけるところが良いところである。研究期間が終わっても学校独自にこの取組を継続してもらいたい。
- ・自分の子どもを見ていると、教えてもらう相手が生成 AI だったりする。教員の役割も今後変化して、教える立場からコーチングする立場へと変わっていくのではないかと感じている。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

（1）学力向上の推進

- ① 生徒が主語となる学びの実践
- ② 一人一台端末などの ICT 機器を活用した学びの実践
- ③ 学科における学びの深化

（2）キャリア教育の推進

- ① ガイダンスとカウンセリングの充実
- ② 社会との接続を意識した進路指導の充実
- ③ 特別活動の深化・充実

（3）生徒・教職員協働によるウェルビーイングの向上

- ① 豊かな心の育成
- ② 健やかな体の育成
- ③ 安心安全で快適な学校環境づくり